# 名義大意

上

特別
口10
3477
1

R10
3477
1

色川御蔭著

# 名義大意

産靈舍藏梓

## 序

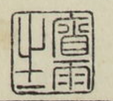
余為讀國史至光仁桓武之朝天子慶親征為將帥之任於源平未嘗不慨然掩卷而歎曰世君臣名義之失胚胎于此后蓋起而降武門立業與其使兵馬專征已威權

當無藩屏之強。而之下者。設若
堂。唯知有主將。不知有天子。年
移世遷。固龍之久。必其至然。於是
乎君臣之名義大敗矣。夫其名
一失。生之矣。隨之。其至之實。名豈
可不正也哉。況曰聖生名門而讽



下。憂在衆之際。按正至又選指名
義大意者。將上樟一徵庸子余
之看其書。雜說確當。系以義明
晰。論破步百年來之所惑。醒
覺之方。今在。俗眼。不地痛快。
好御。流能殘。去。吹。按葉。

二千五百三十三年六月





色川ぬ　はるとしより東京ちうみのの
はつ　はつ　一ちうほどうひかせちうれいと
おやりたみやうとうをうまれみよ多
うたうかいたうはいとうかひなうう
ちうちうれゆのうかはいをかうひなうう
ちうはいをかうはいをかうはいをかうう
ちうはいをかうはいをかうはいをかうう

つゐにうしなはれてこの九
めてたき大法ゆゑに立かへるもゑみる
のうちひらたて名の影さいはらこの四らに家
ぬる故なるべしそのもめ法のもめ
やうにとよ法あるを法不みなりけり
そもそも世に君やはらはらの四



らに四分のうちめらぬ人もまれなり
りみたるをもて古なしのいさをなるを
らぬ人ハ頼氏の外史なるいつまるに
はいしかりひてそもそもはやく國之考
取戒慨言等はあるを異称ゆゑんも
おもひたるハ大うのからるなしのまること

はるかなるうんかうにあるべきなり　九つのあいきと
はいはしてくていうあるべきに縣和於屋二
人の箱又五四箱のみたの為ふるべき
ふ四よはめて生はかよいそまり
ふるまふるもの日本魂ふか
つらもてふ月にあひわ



はるかなるうんかうにあるべきなり　九つのあいきと
てやうかふ四わきまそのあに
かるひとふもあるかしとわつさ
こまるはるもるそ法老の
一迷ふて人ふもあるそかそふの
うあ意者もしてかいはやは時ハ

明治のとしも六月はらめのくるかた
舟の香取の神宮にはの人まつるとし七十の
おとし　稱冝兼大講義中臣伊能穎



## 例言

一　此書ハ亡父御蔭が。隨筆たつもの中よ。書き散らしをりしを。故ありて。今度書籍と。取調へ。ハたをり。はうらにも。見出しつれハ。親戚はしものよも。見せもやと。寫しとりけるよ。をちこちより。借覽をこふもの多ゝ。のりけるハ。筆寫の勞を省かむとの。名をも假よ名義大意とふ。負はせて。いとをこよハあるとも。ゑりまきとはなしつ

はあり

一此書ハ素より梓ニ上せて。世ニ公にせは
の意なりて。ルのせゐにならねば。文辞も。
いと拙おろそれども。真意を失ふことと我
恐れて。暫らく舊のまゝにして改めず。今
や文明開化といふことの。日に行われて。
昨日の是ル。今日ハ非とをる。時ふしられ
ハ。編中まゝあかぬ論ひも。多かるつけた
と。其を看む人恕し給ひてよ。只管此巻を。



名義の素グハ數と憂て。其大意を筆記せる
もはにあんならけは。冀くハ世の人。時様
にのみ昏迷ふて。皇國の皇國たる。源をな
忘れそ。かへ〳〵もよく〳〵心して。青
史に汚名を。殘をまゝきけそかし。

明治六年七月　　色川御胤識

# 名義大意上巻

色川御蔭 著

我國君臣ノ名義正シキヿ神代ニ天神ノ命ヲ以テ天ノ下ニ天孫降臨シ玉ヒシヨリ君ト申レ奉ルハ上一人ニテ大汝命國去リ奉リシヨリ諸神タチヲ始メ王侯以下青人草マテモ皆天孫ノ臣下ニシテ君臣ノ分是ヲ以テ定カニ分レタルヿハ云モサラナリ皇

京都帝國大學圖書

國ノ語ニテキミオミト云フハ漢字ノ君臣ノ意ノ外ニモ遣フフノ有リト雖モ君臣ノ漢字ヲ私ニ用フルフハ無キフナリ王侯貴人ト雖モ私ニ名仕フ者ヲサシテ此皇國ノ人ヲ臣トシ天子ノ外ニ私ニ君臣ト云フハ古ハ決シテ無キフナルヲ近来ニ至リテハ諸侯方ノ家来己カ主人ニ上書スルモノナトニ臣某ト認レハ上ヨリ家来ノ方ヲ指シテ臣下ナト云甚ク古實ニ違ヘルフニテ古



ノ定リヲ知ラサルカラノ僻事ナリ私ニ名仕フモノハ役者ト云フモノニテ役者ヨリハ上ヲハ主人トコソ云ヒ賤ノ男山カツナリトモ臣ト云ハハ天子ニ對シテ云フ詞ナリサレハ如何程高貴ノ人ナリトモ如何程下賤ノ者タリトモ私ニ君臣ト称フフハ無カルヘキ筈ノフナリ君臣トハ下万民天子ニ對シテ云フ称ニシテ皆私ノハ主家来又ハ主役ナト云フ称ニテ有ルヘキ筈ナリ支

那ニテモ普天ノ下王土ニ非ルヿナク率土ノ濱王臣ニ非ルヿナシト云ヘリ大寶令ニ親王家、一品、二品、三品、四品職事、一位、二位、正三位從三位ミナ官ヨリ人ヲ付テ其家事ヲ執ラシムルモノヲ家令トイフ此家令ニ付ケラルヽハ皆公ノ臣下ナリ後世、家隷、家賴、家来ナト云称ハ此家令ノ轉語ナリ近世攝錄ナトノ家ニ諸太夫トテ官家ヲモ勤メ主家ヲモ勤ムルハ古ノ家令ナリ是天子ヘ對



レテハ君臣、攝家ヘ對シテハ主從ナリ此皇國ノ人民タランモノイカナル諸侯ナリトモ君臣トハ云ヘカラス主人ト云ヒ從者ト云フヘシ古ノ定メ天下ノ民百姓ニ良民賤民トノ別アリテ天下百姓農民ト雖モ良民タランモノハ正丁、次丁、中男ノ別アリテ公役ヲ勤メ衛府、兵衛、衛門、舍人或ハ防人事カヲ務メ其器ニヨリテ官位ヲモ賜ハリ昇進ヲモトケ女モ郡司等ノ女ハ采女ニ撰ヒ當ラ

レシナリ是天朝ノ臣ナル故ナリ又賤民ア
リ是素性異ナルヿニテ良ト賤トハ決シテ
交ハラヌ定ナリ良賤ノ男女姦通シ子ヲ生
ムモ生ルヽ子賤ノ付良ニ付ノ定メ至テ嚴
重ナリシナリ此賤民ハ皆良民ニ附屬シ勤
メテ生活ヲモ成スコトヽ見エタリ則チ其
良民ノ從者ナリ又此賤民奴婢ナリノ外ニ家人
ト云フモノアリ是ハ良家ノ子ノ其家ニ從
者ノ如クナレルモノヲ云ニヤアラン百練

抄其外ノ書ニモ天下ノ武士ハ幡太郎義家
朝臣ノ家人ト成ルヿヲ禁ス或ハ天下ノ武
士源平兩家ノ家人トナルヿヲ禁スナト云
ヒ見エタリ是其頃義家朝臣ノ威望アルニ
服從シテ天下ノ武士我勝ニ義家朝臣ノ家
人ト成リシト見エタリ平家ニモ其人ノ心
々ニテ家人トナリシト見エタレハ斯レ其
時代ノ風儀ナリ其後平治ノ亂ニ義朝討タ
レケル時右兵衛佐頼朝ヲ伊豆ノヒルカ小

島ニ流サレ伊東祐親ニ預ケラル然ルニ伊豆、相摸、武藏等ノ國々其外坂東ノ武士トモ流人右兵衛佐ヲ主ナリトテカシツキ仕ヘケルハ是伊豫守頼義、八幡太郎義家ノ頃ニ皆々彼ノ家人トナリシモノドモノ末々ノ武士共ナレハナリ然レ𪜈君臣トハ云ハス主從ナリ是ヨリ以後總追捕使ニ補セラレ征夷大將軍ト成リテ鎌倉ニ幕府ヲ開カレシ後ハ天下ノ武士皆鎌倉ニ附屬スルヿニ



ナリケレモ是ヲ將軍ヨリ臣下トハ云ハス將軍ヲ君トハ云ハヌヿナリ天下ノ武士皆幕府ノ下吏ニシテ所謂主從ナルモノナリ偖武士ノ大ナルヲ大名ト云フハ武士ハ元皆農ナル故ニ多ク田畠ヲ所持スル大農ヲ大名ト云シニテ名ト田ニ依リタル称ナリ昔ハ農ニテモ所持ノ田園ノ地ヲ所領ト今ニ里正市長ナドヲ名主ト云モ是故ナリハ称セシヲ今ハ上ニ領主ノ在ル故ニ農家ニテハ所領ナトハ云ハヌヿニナレリサレ

ハ古代ニハ武士所領ヲ譲リ渡スモ賣渡スモ其人ノ心任セナリシヲイツシカ古代ノ事ハ忘レテ今ハ大名ノ家来ナド其主人ニ上書スルトテ己ヲ臣某ナト書クハアラヌ僻事ナリ漢土ニハサルコノアリモスルケン本朝ニテハ私ノ君臣ト云コハ決シテアルコナシ昔ノ書ヲヨク〳〵讀テ弁フヘキナリ支那ハ天子ノ替ル國ナレトモ日本ハ神代ヨリノ天子ニ座テ代ルコナケレハ君



ト云モ上一人ヨリ外ニハアルマシキ事ナリ近代徳川幕府ニ附属レ仕ヘシ諸侯、大中納言、參議宰相、中少将、其他、諸士、五位、諸太夫、布衣ニ至ルマテ官位ハ悉ク京官ナリ幕府ノ官位ニアラス是京都ヘ對シテハ君臣ニテ幕府ヘハ主従ナル故ナリ又幕府ニテ執行ヒシ政事モ万機ノ政ニテ一家ノ政ニアラザレハ其有司下吏ト雖モ天子ノ下吏ナルコハ論ナシ是ヲ以テ推スヒハ大名ノ家

来モ亦天子ヘ對シテハ君臣大名ヘ對シテ
ハ主從ナリ其君ナル天子ハ遥ニ尊クシテ
遠ク疎ケレハ其主人ノ近ク親シキヲ君ト
モ主人トモ一ツニ心得テカシツキ敬ヒ君
臣トハ天子ニ對スルニ限ルヿヲモ并ヘ知
ラス私ノ主從ヲミタリニ君上ナトモ称ヘ
臣下ナトモ唱ヘケルナリ皇國ノキミト云
ヘル詞ハ尊称ニテ上ヨリ下ノ者ニテモア
カメ尊ヒテハ用ヒ下ノ人上ヲ指テモ又相



互ニモ男女ノ中ラヒニモ互ニ尊称シテ云
詞ナリ君臣ノ君ニ此詞正シク當リタルニ
ハアラスカリテヨミ付タルナリ臣ヲオミ
ト云モ君臣ノ臣ノ字義ニアラス臣連ナト
云姓ノオミヲヨミ付タルナリ君臣ノ字義
ニ適ヒタル皇國語ナケレハ正シクハ當ラ
ストモ義理モ至テ近キ故一カリ用ヒテヨ
ミ付来リシナリ此訓ニ拘ルヘカラス君臣
ノ文字ノ遣方ハ必スミタリナルヿニハ非

ス古書ノ趣キヲヨク見テ知ルヘシ君臣ノ文字ヲハ天子ニ對セサレハ用ヒサル一本朝ノ定マリニテ漢土ニ拘ハル事ニアラス是前代世ハ能ク治リキタレヒ名義ノ明ラカナラサリシ故ナリ文治元年源頼朝総追捕使ニ補セラレシヨリ今年慶應四辰年マテ六百八十四年天下ノ兵權悉ク征夷大將軍ニ委任セラレツヒニ大政モ武家ニ任セラレシ故ニ天下ノ武士ト云フ者悉ク幕府



ニ附屬シ主トシ仕ヘケル故ニイツトナク臣下ト思フヤウニ成リ其以下ノ大名ノ家来モ亦私ニ大名ニ對シテ君臣ナリト思フヤウニ成リケルナリ近来加茂真淵本居宣長等出テヨリ皇國ノ學ヒノ道モ弥増明ラカニナリ上下共ニ名分ノ事ヲ弁ヘ知リタルモノモ多クナリシガ世ノ禁忌ヲ憚リテ本朝ノ御事ヲ建白セシモノモ無カリシハ幕府ノ不幸有司ノ誤リニテ則チ亂兆爰ニ

芽シタルナリ抑モ幕府ヲ鎌倉ニ開カレシヨリ今ノ武家大名ト云モノヽ起リハ天下ノ政事頼朝總追捕使ニ補セシ以来征夷大將軍武家ノ棟梁トナリテ殺伐ノ事ハ皆鎌倉ノ任ナリシカ配下ノ武士ニ私欲ノ事多クシテ何事モ京都ヲ麁略セシ故ニ承久ノ亂モ起リ次第ニ武家我儘ニ成リシカハ後醍醐天皇モ逆鱗マシ〳〵南北両朝ニモ別レ足利ノ時ニ至リテハ北條ノ時ヨリモ亦



一段我儘モ長シタル事ナリ北條時代ニハサル大國ヲ領スル大名ハ無リシラ足利ノ世ニ至リテハ己レニ從テ功アルモノ或ハ我氏族ヲハ大國ヲ與ヘテ我ニ荷膺セシメシヨリ大國ヲ領スル大名ト云ハ出来シナリ北條ノ頃マデノ大名ト云フハ左程ノ大身ハ無ク一所、一郡、一郷程ノ武士ナリ夫モ全ク我田圃ヲ持タルニハアラデ庄園ノ地ノ取締ヲ持タル地所ニテ己レ地頭職ヲ務ル

地ナリ天領ノ所ヲ支配スル大名ヲ守護職ト云ヒシニテ是皆本来ハ我支配シ預ル土地ノ田地一段ヨリ米一斗代銭百文ヅヽヲ取ルヘキ定メナルヲ領家ヘノ上分米トテ租米ヲモ地頭カ私欲シテ出サヾリケルカ多カリシ由ナリ足利ノ世ニナリテハ南北朝ノ分レニヨリテ庄園ノ地モ少ク専ニ守護地頭ト云フモノ己カ有トセシナリ山名、細川、斯波、今川、其外大國ヲ守護職ナトヽテ



遣シタルハ頼朝以来武家ニテ取締リノヿヲノミ守護地頭トテ預リタル天子ノ地ナリシ又土地ヲ武家ノ有ト成セシモ頼朝ニ芽シテ足利ニ極リ武家大政ヲ執リ行フヿモ頼朝總追捕使ノ補任ヨリ芽シテ足利ノ亂ニ極リシナリ古ノ武士ハ悉ク總國ノ農民ニシテ農民ハ皆兵士ナリ争カ武士ト百姓トノ別アランヤサレハコヽ昔ハ事アルトキハ大軍ヲモ集ヒシニ今ハ武士ト百性ト

別ナレハ百性ノ一揆ニハ大軍モ集マレ氏武家ノ兵事ニテハ大軍ハ出シ難シ且武家ト百性ト別ナル故ニ上ヨリ農ヲ憐ムヿ少ナケレハ自然人氣ノ離ルヽ基トハナリケルナリ武士ハ元ヨリ武士ナリト思フヘカラス百性モ元ハ皆武士ナリト思フテ百性ヲ卑シメ悔ルヘカラス武士モ元ハ皆百性ノ家筋ナリサレハ昔ハ百性ヲ今ノヤウニハ卑メス源、平、藤、橘ノ家ノ姓ニテモ百性ナルカ多カリシ武士トテ百性トテ根元ヨリ一ツ物ニテ違フヿナク同シク人種ナリイカナレハ百性ヲ軽レムルヤ誠ニ近来ノ惡風ナリ應仁ノ亂ヨリ天下一日モ安キヿナク朝廷モ殊ニ衰ヘサセ玉ヒ公卿方モ爰カシコニ流浪シ朝廷ノ礼典モ廢止シ給フヿナリシニ百二三十年ノ亂世ヲ鎮ノ慶長、元和ヨリ二百五六十年餘干戈ヲ動スヿ無ク大平ノ御代ニ治リシハ全ク東照宮ノ盛德

ニヨル處ニテ朝廷ノ礼典モ再ヒ興リ尊崇ノ道モ開ケ行キシニ天下ノ大政ハ賴朝以来ノ仕来リノ儘武家ニ任セラル、ト云ハ全ク撥亂ノ業モ武家ノ骨折ニ出シフナレハ元ヨリ武家ノ棟梁ニ任シ玉フヘキ勢ニテ征夷大將軍ニ補任セラレ承久ヨリ建武、延元ノ例モ公家ノ政事ハ世ニ合ハヌ樣ナリケレハ幕府ニ委任シ給ヒシフ至極ノ御事ナリサテ二百年餘モ太平打續キケレバ



文道モ追々ニ相開ケ難有御代ノ餘澤ニヨリテ本朝ノ万國ニ勝レテ貴キフモ名義ノ一日モ廢スヘカラサルヲモ各弁ヘ知ルフニハナレリ徳川家康公久シキ亂世ノ後ニ出テ世ヲ静治シ給ヒ絶タルヲ繼キ廢レタルヲ興シ日出度御世ニナリ古記録古書ヲモ多ク求メ出シ給ヒ古キヲ尋ヌ朝廷ノ御事モ再ヒ興立ナシモヒケレ尼誠ニ何事モ形計ニテコソアリケル旦公事ハ申ニ及ハ

ス世ノ中ノ事ヨロヅ何事モ乱世ノ儘ニ治メ置カセ給ヒケル儘名義ノ明カナル世ニナリテハ誠ニ朝廷ニ對サセ給ヒテハイカヽナルフモ自ラ多カリシナリ目出度御世トモ成行キタランニハイカテ上代ノ王室ノ朝廷ニハ至ラストモ亦格別ナル御尊崇ノ道モ建ツルホドノ御處置モアルヘキフナリシヲカシ承久ノ亂モ北條ノ我儘ニテ朝廷ヲ蔑如セシニ興リ元享建武モ亦北条



ノ計ラヒノ故ニテ御前代ノ御志ヲ繼セ玉ヒシニヨレリ然ルニ足利逆意ヲ專ラニシ遂ニ武家ノ威勢盛ニテ朝家ヲハ弥蔑如シ後々ハ武士トモノ私欲ニ依リテ世ノ中モ大キニ搔亂レタルナレハ其源ヲ尋子テ必シモ頼朝幕府ヲ鎌倉ニ開カレシ以前ニ考校ヘテ朝廷ヲ取建尊崇シ玉ハサレハ誠ニ治世ニ成シ玉ヒシ甲斐ハ無シト云フヘキナリサルカラニ自然武家ノミ榮耀ヲ盡シ

潛上無禮ナル振舞ニハ至レルナリ是ハ大樹ノミニアラス諸侯トテモ其罪ハマヌカルヘカラス夫ト云フモ足利ノ惡キ例ヲ摸範トセシ故ノ一ナリ右ノ譯ナレハ幕府ハ朝廷ヲ守護シ國々賊徒其他ノ亂妨無キヤウ百性ヲ撫育シ御代ヲ太平無事ナラシムル職掌ナル一明ラケシ今ノ武家ハ所領ヨリ租ノ一粒モ出サス皆カラ其地其民ヲオノカ有トセシ故ニ自ラ奢侈ニモ落入シモ



ノニシテ是幕府モ諸侯モ同シ事ナリ今ノ世ニ農家ヨリ年貢トテ取建ル物ハ其内ニ朝廷ノ租モ幕府ノ兵粮米モ地頭ノ給米モ悉ク籠モレルカ上ニモ亦格外ニ取箇ノ増レルモノニテ其田積ハ返テ上代ヨリ校ヘテハ半ハニモ及ハヌ程ナルヘシ其子細ハ別ニクハシキ一アリ爰ニ略ス朝廷御領ノ租并ニ庄園ノ上分米ヲハ足利ノ世ニハ悉ク押領シテ皆カラ武家ヘ年貢トテ取上ル

事ニナリテ百性ト武家トハ自然ト別物ニハ成リシモノナリ時代ヲ以テ自然ト相變レ取上ル武家ニモ納ムル農人ニモサルモノト思ヒテ昔ノ来歴ヲ知レル人ハ稀ナル世ニ成リシ故ニ取上ルヲ僻事トモ不知農民モ當然ノ事ト思ヒテ少シモ厭フ事ハ無キヿナレトモ誠ニイタハシキハ今ノ世ノ農民ニ限レリ是カ總國ノ困窮ニテ國家ノ富マサル所以ナリサレハ朝廷ト縉紳家ト



農民トノミ困窮ニテ其間ノ武家バカリ廣大ノ榮耀ヲ盡セルヿ故名義ノ明ラカナルトハ申難キ世ナリシ是則德川家ノ不德ナリ越度ナリ今ニ於テハ其罪ノ歸スル處ナレハ遁ルヘカラサルナリ水戸黄門光圀卿世ニ出玉ヒ本朝ノ禮典モ明カニ大日本史ノ撰ニヨリ名義ノ大ナルヲモ世ニ明カシケレ𪜈未タ世ニ廣ク人ノ辨ヘ知ル程ニモ至ラス識者モ多ク出タレ𪜈漢籍ヲヨク讀

ミシマテニテ本朝ノ道ヲハ正スヘキモノトモ思ハス儒者ノ僻ニテ近キ世ニ至リテモ皇國ノ書物ヲハ見ヘキモノトハ思ヒヤラテ假字書キノ書ヲハ俗書ノヤウニ云ヒナシ動モスレハ皇國史ハ漢文ノ漢風ニ移リ足ヌヲ嫌ヒナトシテ兎角ニ我國ノ事ハ知ラストモ濟ムヤウニノミ思ヘルナリ淺ハカナルコトナラスヤ近代加茂真淵本居宣長ナド國學ノ筋ヲ立テ大道ヲ明シ神道ヲ



尊ヒ神典ヲ辨説シ平田篤胤續テ神典ヲ解シ神道ヲ大ニ振興シ皇國ノ道ヲ釋キ弘ム儒者ニハ頼山陽日本外史ノ著アリシヨリ此頃ニ至リ儒者モ日本ノ道アルコトヲ知リ名義ノ大道ヲモ唱ル士ハ多クナリシニコソアリケレ扨コソ我國ノ萬國ニスクレテ尊キ國柄ナルコトモ亦比ヒ御座ヌ天子ニテ座スコトモ國中上下弁ヘ知ラヌモノハ少ナキ世トハナリシナリサレハ此皇國ニテハ

開闢以来ノ帝王マシマシテ其外ニ君ト仰キ奉ルヘキモノハナキハツナリ

名義大意上巻終

色川御陰著

# 名義大意

産靈合藏梓